

九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日 2023 年 10 月 30 日

学 校 名	九州産業大学		
学部・学科名	地域共創学部 観光学科・地域づくり学科		
チ ャーム名 (個人参加の場合は任意)	木本・中村	エントリーNo.	31

1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか)

テーマ：動く職場～乗る・行く・貢献する

・現状および課題認識

○ワーキングについて

コロナ禍で「働きながら休暇を楽しむ新しい働き方」の一環として位置付けられた「ワーケーション」。「ワーケーション」とは「work(労働)」と「vacation(休暇)」を組み合わせたものであり、観光地にて働きながら休暇をとるものとなっている。

JR 東海では、東海道新幹線で、2021 年 10 月からビジネスパーソン向けに「S work 車両」を導入。移動時間も仕事ができるよう、専用コンセントや Wi-Fi が完備。しかし、これは移動時間中に仕事をするのみのコワーキングスペースのようなサービスだ。

また、しなの鉄道と越後ときめき鉄道の観光列車の中で仕事をする「信越トレイン」という事例はあったが、貸切列車を使うため利用コストが高い。現在のワーケーション向けのサービスという内容では、通常の営業列車を使用し、リーズナブルな旅行のプランとして販売・提供している事例はまだない。

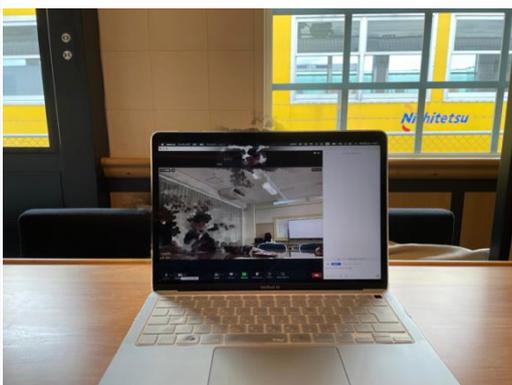
今回のビジネスプランでは、観光列車大国の九州で、自然豊かな景色を見て息抜きをしながら、落ち着いた空間で仕事をしていただき、地域ごとの人と文化に触れ合える機会も用意し、人手不足などの問題をかかえる地方の宿泊業の現状も体感してもらうことで、地域経済を少しでも PR し活性化できるような旅行プランとしたい。

2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

今回、鉄道内で移動しながら「ワーケーション」を行う『ワーケーション in 鉄道(仮称)』を提案したい。

九州には観光地が多く存在しており、各地の名所を繋ぐ観光列車も多い。JR や私鉄の観光列車に Wi-Fi も設置した「テレワーク専用車両」を設定し、仕事をしながら車窓を見てリフレッシュし、車内販売や物品販売で沿線の名産品を味わう。

“いまだかつてない仕事の方法を”をテーマに、九州が持っている観光資源を活用した「ワーケーションプラン」を組み、一泊二日といった短期の宿泊旅行ではなく、二泊三日あるいはそれ以上の日数での利用を想定する。



(例 1)ワーケーション in 鉄道 長崎編

～2つの海を堪能するワーケーション～

(例 2)ワーケーション in 鉄道 大分編

～温泉と湯治を堪能するワーケーション～

このプランは、例えば長崎と佐賀、大分と熊本、福岡・熊本・鹿児島など、場所を組み合わせずとも想定しており、滞在期間や内容において多様なニーズに柔軟に対応できると考えている。

↑西日本鉄道の観光列車 THE RAIL KITCHEN CHIKUGO で行った実験の様子

3. 九州や地域社会への影響について

・新たなアイデアが九州や地域に及ぼす効果(誘客、活性化等)はどうか。

この事業で、沿線地域に対しての経済を活性化させる効果があると考えている。

宿泊は列車内ではなく、各地の旅館を活用する。沿線の宿泊業を中心に、飲食等にも経済効果を波及させることができると考えている。

駅や地域等で地元の方との交流をすることで、沿線地域の魅力を発見してもらおうと同時に地方の現状もみていただきたい。もちろん、地域行政を巻き込んで実施することを考えている。

4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

・商品・サービス・ノウハウなどを分かりやすくご説明ください。

商品名：『ワーケーション in 鉄道』シリーズ

＝概要＝

九州に活躍する観光列車に乗車し、九州自慢の自然を見ながら特別な空間で仕事をする。春夏秋冬、シーズンごとで変わる景色を見てリフレッシュをし、沿線の宿で心と体を休める(癒す)企画。

場所や鉄道会社、宿泊施設など、さまざまパターンを組み合わせることができる。

上記でも述べた2つの例を紹介する。

(例1)

『ワーケーション in 鉄道 長崎編～2つの海を堪能するワーケーション～』

DAY1:博多駅から諫早まで特急列車に乗車。諫早から島鉄のカフェトレインに乗車し、大三東駅や古部駅に停車し海を見てリフレッシュしてもらう。下車した後は、島原城見学や島原で宿泊する。

DAY2:島鉄カフェトレインで諫早に移動。ふたつ星4047で海を見ながら仕事をし、ゆっくりと長崎へ。

仕事が終わった後はグラバー園や亀山社中、新地中華街を楽しみ、夜は稲佐山からの夜景を見て癒されてもらう。

DAY3:ふたつ星4047で仕事をしながら長崎から佐世保へ。千綿での地域の方のおもてなしや車内販売で地域との触れ合いを感じてもらう。佐世保到着後佐世保バーガーなどを楽しんで旅の終盤へ。特急36+3で帰路に着く。

※観光地での飲食、車内販売等は各自

※佐世保バーガーは連盟に加盟しているバーガー店で使えるチケットを配布して対応

(例2)

『ワーケーション in 鉄道 大分編～温泉を堪能するワーケーション～』

DAY1:出発地は福岡・博多駅。ゆふいんの森号に乗車し久大本線で湯布院方面に向かう。

緑あふれる車窓を見ながら車内で仕事をし、日田・由布院・天ヶ瀬などの温泉地で下車。

下車した後は宿に移動し、各地の温泉を楽しんでももらう。

DAY2:引き続きゆふいんの森号の中で仕事をし、終着地別府へ。

全国屈指の温泉郷である別府の温泉に入り、心と体を癒してもらう。

DAY3:別府から九州横断特急の中で温泉天国の豊後竹田方面へ。

ラムネ温泉やガニ湯など、個性的な温泉を楽しんでもらう。

DAY4:熊本経由で新幹線に乗車し博多へ。その後帰路に着く。

- ・下車したあとは宿に移動し、落ち着いた空間で仕事に取り組んでもらう。
 - ・仕事を終えた後は宿周辺の魅力あふれる街を楽しんでもらい、飲食等を探し、魅力を発見してもらいたい。
 - ・市外の人と地域の人が触れ合うことで、その地域の人々の温かみを感じ、特別な空間で自然を堪能しながら仕事をする事で、九州各地の沿線地域の新しい一面を発見してほしいと考える。
- ・「事業収入(提供金額)」「費用(事業コスト)」「告知手法」等を可能な限り記述してください。

事業収入：各県とも4万円程度/人を基本金額とする。

→オプションを選択し、追加料金を払うことで、宿の部屋をグレードアップすることができる。

(宿ごとに人数制限を設け、一つの宿に集中しないようにする。)

費用：列車内に設置するビジネス向けのWi-Fi、電源代(モバイルバッテリー等)

導入告知手法：SNSを使った宣伝や、マスコミ向けのプレスリリースにて告知。

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

【事業化後の目標】

- ・鉄道会社間、ホテル、旅館、旅行会社、自治体等の連携・継続可能な事業にするために協議会を発足
- ・鉄道を使った「新しい形の仕事」を実現する
- ・列車内にビジネス向けのWi-Fi、電源の提供

【継続可能性】

この事業は、1人だけでなく、社員旅行や長期休暇中の小学生にも短期集中的な塾として応用できると考えている。夏休みの研究や宿題をする空間として親子で乗車するプランも提供できればと思う。また、ななつ星 in 九州での贅沢なワーケーションなど、人それぞれのニーズや年代、職種に今後対応していければと考えている。

【将来のイメージについて】

近年、在宅ワークができる企業が増えている。そのため、会社の近くに家を持たず、隣の県や離れたの県に家を持つ人が増えてきている。訪れた土地に新しい魅力を発見し、移住してもらおうということも、この企画のもう一つの目標に出来ればと思う。

また、宿泊施設等での食事の際には参加者が集まり、交流の場を設けることによって参加者同士での新たな交流が生まれ、新規ビジネスなどさまざまな価値が創造できるのではと考える。ツアー形式のワーケーションでなければ生まれることのない強みではないだろうかと期待する。

九州には他の地域にない自然豊かな景色がある。鉄道路線を維持することができ、沿線自治体の経済を循環させ持続可能な社会を鉄道から形成していきたい。